

学会パネル展示

昨年11月、造園学会関西支部大会において、2点のパネルを展示しました。当センターが行った調査研究で、「再整備が急がれる都心の公園」と題したものと、会員の馬場謙二氏による「改修による日本庭園」と題したデンマークの日本庭園の改修整備です。



「再整備が急がれる都心の公園」

「改修による日本庭園」

ホームページ更新のお知らせ

7月より会員様向けに公開していたホームページの内容をより多くの人に見ていただくために、一般向けのホームページと統合します。再編に伴い、会員様の投稿記事や活動内容を掲載するコーナーを新たに設置します。会員の皆様の掲載依頼を受け付けておりますので、どうぞご利用ください。

■『古都における世界遺産』 服部 明世

■アスコット/パーリントン・コート/ヒドコート・マナーガーデン/キラートン/ナイツヘイズ/モティスフォント・アビィ/ナイアンズ/スコットニー城/スタウヘッド・ガーデンズ/ウェークハースト・プレスの庭園（追加更新）

<http://www.klrs.org/>

国際造園

検索

通常総会

平成22年度6月23日(水)午後4時から、パノラマレストランアサヒにおいて平成22年度通常総会を開催した。

総正会員70名の過半数52名の出席となり、本総会は成立した。清水理事長を議長として、議案、平成21年度事業報告および決算報告、平成22年度事業計画案および収入・支出予算案、役員改選ならびに総会議決事項の委任は原案のとおり可決された。

総会終了後、当センター理事、吉田昌弘 空間創建会長の黄綬褒章記念講演会を開催した。

事務局だより

□新入会員のご紹介

個人会員 左 寄 晋吾

友の会 康 茆娜 塩崎 昌

□ご寄付・賛助金

次の方々よりご協力頂きました。有難うございます。

故 藤本 富子 500.000円

匿名 493.685円

＜ご入会の案内＞

当センターは都市緑化への協力に努めながら、造園、園芸技術の研究、研修会、見学会の開催、自然と環境問題の調査、国際交流の推進などをテーマに活動しています。関心をお持ちの方へ、主旨にご賛同の方はぜひご参加下さい。

	入会金	年会費
個人正会員	10000円	10000円
団体正会員	50000円	30000円
賛助会員	30000円	20000円
友の会	免除	3000円

＜ご寄付のお願い＞

当センターの活動をさらに活性化させるため、広く皆さまのご支援を賜りたく、ご寄付をお願い申し上げます。

編集後記

22年度の庭園見学は、平等院、醍醐寺から始まり、秋には鳥取の庭園まで足をのばして、この早春には苔寺、宝厳寺と広く新旧の寺院の庭を訪ねました。また、国際的には、台北国際花卉博への会員の出展参加を契機として台湾一周の旅を楽しんだわけです。それらの報告をかねた紀行文で紙面の大半をうめていますが、今後は会員の方々の随筆や近況などを多く掲載していく方針ですので積極的なご投稿をお待ちしております。

さらに、9月には当国際造園研究センターの設立10周年を迎えることになります。これを記念して、23年度には記念事業を展開すべきだと思っていますので、これについても発展的なご意見、提案などお寄せ下さい。

NPO法人 国際造園研究センター

〒530-0047 大阪市北区西天満4-5-5 マーキス梅田 201号
TEL/FAX : 06-6363-3374

NPO法人

国際造園研究センター会報

No. 8

2011

6月発行

西芳寺と宝厳寺の庭

ようやく春めいて来た3月の12日に催した古刹西芳寺と近年建立された宝厳寺の庭園研修会には、予期せぬ程の参加者があった。西芳寺では本堂にて読経そして阿弥陀如来像に拝跪後、金剛池を見下ろしながら寺僧からの概説を拝聴して、各自思い思いに黄金池をめぐり、向上関から指東庵そして枯山水を見て、龍淵水と一巡した。それぞれ夢窓国師の中興開山当時の情景を心に描いたことであろう。

この寺は、荒廃していた浄土宗の西方教院を、夢窓国師が壇越藤原親秀の懇請をうけ中興開山した禅宗の寺院である。国師は、池を広げ、堤を築いて柳を植え、泉から流れを引き、白沙の州浜と松の島々を造って、黄金池と名づけた。池には二艘の舟を浮かべ北岸に潭北亭を南には湘南亭を建て、東側に小亭の立つ邀月橋を架けた。さらに、西北岸には舍利塔のある二層の瑠璃殿と、その奥に無量寿仏像を安置する仏殿西来堂を建立したのである。

貞和3年(1347)には、天竜寺で仏事をすませた光厳上皇(北朝)の御幸があり、舟に乗り雅楽を楽しみ、夜には高蠟燭の明かりの下で桜の花見を催している。後醍醐天皇(南朝)の菩提を弔う天竜寺とは異なる雰囲気のある浄土の庭とも言うべき遊楽の庭であったのであろう。

これらの殿宇は、応仁の乱(1469)の時に西軍の手によって放火され、残ったのは湘南亭のみで、その後も二度の大洪水で池庭は埋没した。北村援琴の『築山庭造伝』(1735)の挿絵では黄金池は水溜りのように描かれており、「神仙の住居のごとくひいでた景」と添え書きがある。荒れ寺ながら魅力ある庭なのであったのであろう。

現存する建物は、利休の孫の千少庵が建てた松庵(湘南亭)を除いて、明治11年以降のものだという。この庭を蔽う木立、池の水面そして緑に苔の織り成す景に、自然の匠の力と人工の限界を改めて知らしめられた。

向上関をくぐると穢土寺に入る。通宵路を登り、しばらく歩くと坐禅堂の指東庵に出会う。その東の山裾に三つの石組からなる有名な枯山水がある。かつては、楞伽窟と言われ坐禅修行の場であって、麻羅耶山上の楞伽大城になぞらえる気魄をこめて国師が岩組みしたものだとされている。一方、四条染殿の地藏菩薩が国師の庭造りを手伝ったとのことから染殿地藏の作とも言われてきた。そして、この石組みが大和絵風の四条流で、天竜寺の石組みの北宋山水画風を嵯峨流と対比されている。石庭の権威重森三玲は、夢窓国師作の説を強く否定していた。その姿形が大和絵風であり、国師は、古い墳墓を壊して作るようなことはしないとの心情からも、国師以前の作庭記風の枯山水だと言う。天竜寺の滝の石組みとは石質も形も異なり、この作事が『国師年譜』に記載されていないところからも国師作とは断定しがたいようだ。



洪隠山枯山水石組み (スケッチ 馬場)



西芳寺 黄金池

宝厳寺では、本堂の広間で庭の講話があった。この寺の創建は室町時代にまで遡れるが、現在の地、天竜寺の塔頭妙智院の跡に移転してきたのは、最近のことであり、建物も庭も初々しく明るい。もともとは、夢窓国師の法孫にあたる策彦周良禅師作の獅子吼の庭として名高い所であった。その当時からの獅子石をはじめ壁石、響石を活かした回遊式庭園で、苦海に須弥山を造り、雲上三尊石を立て、竜門の滝と禅寺らしく一般庶民に分かりよく親しみがある。秋の紅葉の時には、千客万来とのこと。この庭の独特の豊丸垣を見て五百羅漢に送られて帰途についた。

清水 正之

「因幡の名園と世界ジオパークをたずねて」の記

22年度研修部会・庭園部会合同の研修旅行が平成22年12月3日(金)・4日(土)の日程で鳥取方面で行われました。参加者は大阪出発組が6人、現地集合組3人を合わせて、計9人。コンパクトながら楽しい研修旅行となりました。この企画は、そもそも当センター理事である鳥取環境大学中橋文夫教授の発案で、日本造園学会関西支部大会の参加も兼ねるもの。この支部大会の開催に合わせ、大会前日を鳥取市内の庭園見学、鳥取砂丘等の見学に充て、二日目は、観光地巡りと造園学会支部大会参加の二者選択制としました。

鳥取市内の名園については、仁風閣に隣接した宝隆院をはじめ、興禅寺や観音院など、当地を代表する庭園をめぐったほか、鳥取城跡・久松公園などの名所も探訪し、清水理事長、吉田昌弘庭園部会長、中橋理事の解説なども交え、大変有意義な会であったと思います。私が印象に残ったところをピックアップすると、旧藩主池田家の別邸として建てられたフレンチルネサンス様式の白亜の洋館、仁風閣(国指定重要文化財)の後ろに位置する宝隆院庭園は、久松山を背にこの自然をうまく生かした池泉回遊式庭園といわれています。しかし、当センターお歴々によれば、これは池泉回遊式庭園ではないとの見立て。勉強になりました。



修復中の観音院庭園

次に国指定名勝である観音院庭園は、残念ながら修復工事中でしたが、かえってゆつくりと見学が出来ました。観音院は、観光パンフによれば鳥取藩主池田家の祈願所だったところで、中国観音霊場33番札所。庭園は藩主池田光中が作ったといわれる蓬萊式池泉鑑賞庭園で、慶安3年(1650)から10年もの歳月を費やして作られたそうです。庭園の面積は1,200㎡で、そのうち約半分は池で占められています。雄大な築山、鶴島・亀島を巧みに配した池は、狩野派水墨山水画の手法といわれております。この修復は、当センター理事の尼崎先生が監修されておられるようで、機会があれば、尼崎先生、また吉田庭園部会長からも、因幡の名園解説をお聞きしたいと思った次第です。



宝隆院庭園と仁風閣



日本海を眺め思索にふける理事長、『今晚の酒は——』

糸谷正俊

インドの仏跡を尋ねて

平成23年2月13日から7日間北インド仏跡を巡った。まずデリーに入り空路でバトナまで移動し、陸路でナランダ、ブッタガヤ、サルナート、ベナレス、アグラ、マトウラへ行き帰路についた。尋ねた仏跡は、ナランダ大学、ブッタガヤ・大菩提寺、サルナート・鹿野苑の3ヶ所。

【ナランダ大学】西遊記の玄奘三蔵が訪れ仏教を学んだ場所である。「ナランダ」とは、蓮のある場所をさし、蓮は知恵の象徴であり、知恵を与え、知恵が授かる場所という意味である。ここは最高1万人近くの学生と1,500人ほどの教員が住んだ居住型の大学であったが、1193年にイスラムのトルコ人の侵略によって大学は破壊された。ナランダ大学跡は厳重な鉄柵に守られ、鉄柵をぬけて100mほど歩くと、遺跡の煉瓦の壁が見えた。城壁のような通路をぬけると視界が開け煉瓦造りの遺跡が現れた。全体が煉瓦造りのため大きな開口部もなく圧倒的な量塊と緑の芝生のコントラストが非常に印象的だった。



大塔

【ブッタガヤ大菩提寺】釈迦が悟りを開いた所で後に卒塔婆として建立された寺院である。建立後、トルコ人の破壊を恐れた村人が寺院全体を土で覆い隠したとされ、場所が分からず伝説の地となっていたが、イギリス人探検家によって発見された。その後、ヒンドゥ教徒の管理下におかれ、荒廃していたが、1992年に仏教徒の手に戻り、ミャンマー仏教徒によって改修され、世界遺産に登録されている。大菩提寺への途中は、露天が並び緑日に似た賑わいで、砂埃の中を歩き、セキュリティゲートをくぐると無数の仏像の装飾が彫り込まれた塔がそびえ立っていた。大塔の裏には菩提樹の木があり、時折舞落ちる木葉を子供が拾い集める姿は微笑ましかった。

【鹿野苑】釈迦が最初に説法を説いた所とされ、大小数多くの台座が残っており、高僧ほど大きな台座に座して、修行したといわれている。一角にダメーク・ストゥーパと呼ばれる大きな卒塔婆があった。現在はインド政府によって遺跡公園として管理される。これまでに見た仏跡の中で最も公園化された遺跡で、緑の芝の上に台座が点在しており、園内の中央部は、説法に利用されたのであろうが開けた場所となっていた。日本とは全く異なる価値観と世界観の中で造り上げられたものには、時間を経ても新鮮で非常に興味深いものがあつた。



ナランダ大学



鹿野苑

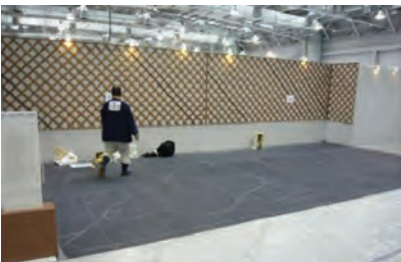
2010台北国際花卉博覧会出展 てんまつ記

暖かい台北の11月 小雨模様の空の下。野外庭園エリアでは、上海市と西安市がオープン目指して、てんてこ舞い。ドロドロ、クチャクチャを横目に法被姿の日本人が向かうのは、争艶館(EXPOホール)。11月6日の開会から2週間開催される、国際インドアガーデンコンテストの会場です。思えば、平成21年12月に出展要請があり、2月の申請。そして国際審査の認証。ブースの決定。図面も何枚書いたことか。やっとここまで漕ぎ着けたと、思わず法被の襟に手をやり、「ととのいました!」とやりたくなるのが大阪人。

争艶館は、休止施設の中山サッカー場を改修して建設された花博の室内展示会場です。なんとフィールドに展示館と広場。スタンドは、紅をデザインした花壇に、そして階下は、花博のオフィスとフードコートに店舗を配置。モノレール園山駅も隣接し、まさに花博の表玄関といえる施設です。室内は、2週間展示のAゾーン、長期展示のBゾーン。インフォメーションコーナーのCゾーンに区分され、我々は鉦音高いAゾーンへ。しかし意外と静かなのに驚き、思わず周りを見渡しました。「やってる やってる」フラワー屋さんが細かい仕事。その横には、蘭の鉢植が山のように。やはり台湾は南国と再認識させられ、造園屋も頑張ろうと妙なライバル意識が湧いてきました。本来会場は、車輛通行禁止。派手に聞こえてくるのは設営の大工さんの音だけです。従って我々も人力作業。私は、台車に油圧ジャッキ(重量運搬)の調達係に変身です。

現地施工に当たっては、岩億實業股份有限公司の林海平氏(社長)に協力を依頼しました。林氏は、日本で博士課程を修了。日本庭園に対する造詣も深く、台北市景觀工程商業同業公會の最年少理事を努められる立派な方でした。

この記録のDVDを作成しましたので、皆様に見ていただきたいと思っております。今回の出展にあたり、NPO国際造園研究センターからは、藤本基金からのご支援、またオープン翌日には、清水理事長、荒木理事の方々にも現地をご覧ください。



田中明男

『九份(チウフン)』

福森幸子

台湾北部に位置し。台北から車で1時間くらいの所にある小さな集落。山間に石段がうねるようにつく九份の町並みは、風情ある家屋が軒を並べ、19世紀末に金鉱で栄えたときの華やかな時代を思わせる洋風を取り入れた建物も残っており独特な町並みでした。町の中心には豎崎路があり、階段の続く細い通路には古くからある茶藝館が連なっていました。それを横切る基山街の通りに100年以上前に建てられたレンガ造りの建物「九份茶坊」という茶藝館があります。中に入るとお湯を沸かす木炭の香りがし、時が止まったかのように懐かしい雰囲気でした。階下の陶芸工房で作られた茶器などが並び芸術に触れることが出来ます。すっかり日も暮れると町の赤提灯の明かりが灯り昼間とは違う雰囲気になり「千と千尋の神隠し」の街に來たような空間でした。ゆったりとした時間がながれ、ここが休まるので台湾に行かれたら一度行ってみてください。

